

甲子園野球の優勝校の新聞報道—都会と地方の比較

Newspaper Coverage of the High School Baseball Championship: A Comparison between the City and the Provinces

1K07B501-5 木藤 貴公

指導教員 主査 リー・トンプソン先生 副査 寒川 恒夫先生

I. 序章

甲子園大会は夏の風物詩の1つになっている。そしてこのスポーツイベントの特徴の1つが各都道府県の代表が集い、競い合うことである。地方の地域が都会の地域に対して抱く思いは、都会から地方に対する思いより強い傾向がある。その思いは憧れなどのプラスの思いもあれば、抵抗感などのマイナスの思いもある。地域によってどのような新聞報道の違いがあるのか、そして地方の地域の方がより地元・地域に関する報道が多くなるのではないだろうか。今回の研究では、地方と都会の定義を行い、それぞれの地域で全国制覇を達成したチームをピックアップした。地方：佐賀県立佐賀北高等学校（佐賀）、都会：中京大学附属中京高等学校（愛知）である。両地域の新聞、佐賀新聞、中日新聞、そして朝日新聞を加えた3紙、第89、91回全国高等学校野球選手権大会を調査対象として比較を行った。

II. 第1章

この章では、甲子園大会の歴史的背景について述べていき、前半は野球人気の一翼を担った第一高等学校（一高）から、東京朝日新聞社が1911年8月20日から野球そのもの、あるいは野球界の弊害を批判するキャンペーンを展開したことがきっかけの野球害毒論争についてである。後半では全国優勝野球大会の形成について述べていった。前述の東京朝日新聞社のキャンペーンの4年後、大阪朝日新聞社を中心として全国中等学校優勝野球大会が開催された。これが現在の甲子園大会の始まりである。

III. 第2章

この章では、郷土意識と甲子園大会について述べていった。私たちはいつ故郷というものを考えるのだろうか。また、故郷という概念はいつ生まれるのか。それは空間的かつ時間的に移動することにより生まれる。この移動を繰り返していくうちに自分の故郷を考えていくのである。このことから考えると、まだ故郷という概念を持っている選手は少ないと思われる。甲子園大会が郷土意識を考えさせられる大会であるのは、主に観衆であることを頭に入れておく必要があるのかもしれない。

IV. 第3章

この章では、第89回全国高等学校野球選手権大会での朝日新聞、中日新聞、佐賀新聞の3紙の報道を表、図を中心に示した。2007年8月8日から8月23日までの朝刊を対象とし、高校野球記事を7種の項目に分類しそれぞれの記事の面積、割合を示した。また、高校野球記事全体の中で、優勝校である佐賀県立佐賀北高等学校についての報道割合は、朝日新聞、中日新聞はそれぞれ約17%であったのに対し、佐賀新聞は約70%という値になった。

V. 第4章

第3章同様に、第91回全国高等学校野球選手権大会での朝日新聞、中日新聞、佐賀新聞の3紙の報道を表、図を中心に示した。2009年8月8日から8月25日までの朝刊を対象とし、高校野球記事を7種の項目に分類しそれぞれの記事の面積、割合を示した。また、高校野球記事全体の中で、優勝校である中京大学附属中京高等学校についての報道割合は、朝日新聞、佐賀新聞はそれぞれ約12%であったのに対し、中日新聞は約57%という値になった。

VI. 第5章

第3、4章で示した数値をもとに3紙の比較を行った。高校野球記事全体に占める地元・地域に関する記事の割合において、第89、91回両大会の中で佐賀県立佐賀北高等学校が優勝した第89回大会の佐賀新聞の17.97%という値が最も大きい数値となった。また、地元の高校が優勝した大会での、その地域の新聞報道では、試合内容の記事の割合が低くなり、地元・地域に関する記事の割合がその分高くなるかたちとなった。

VII. 第6章

この章では全体のまとめとし、今回の研究で定義した地方と都会の両地域において数値で見ると、地方の地域の方が地元・地域に関する報道が多くなる傾向があるように思われる。記事の内容に関して寄付金を募るなどの地元の人と一緒に甲子園大会に参加することを促す記事も見られ、甲子園大会の意義を再認識することになった。